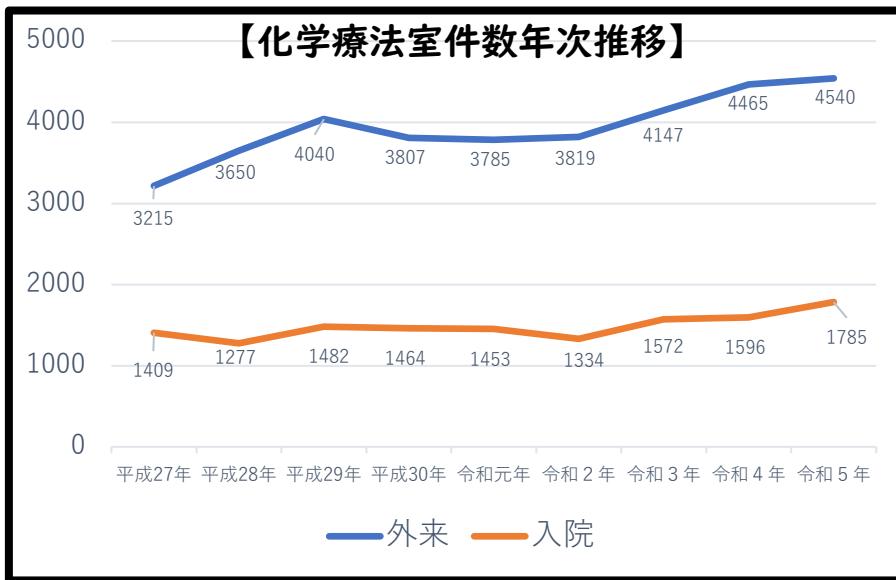
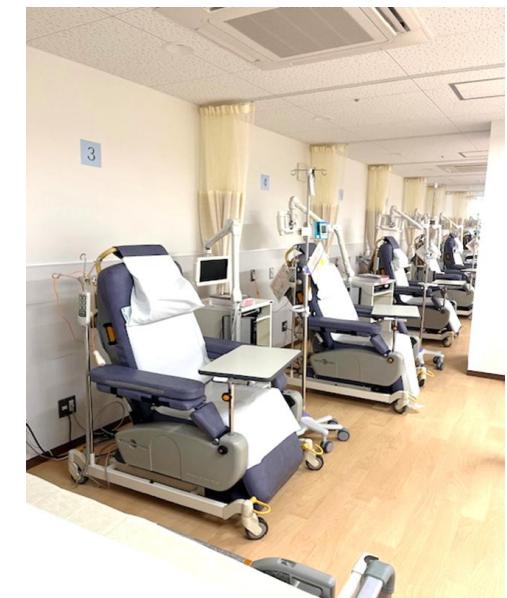
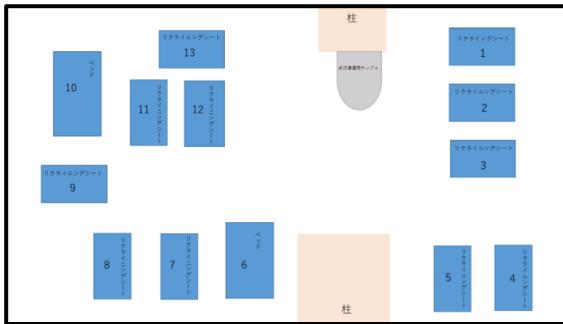


# 化学療法室移転に伴う看護体制の確立にむけての取り組み ～セル看護提供方式導入の試み～

原木久美 鈴木公子 青山治子



【旧外来化学療法室ベッド配置】



セル看護提供方式：福岡県の飯塚病院で発案・開発された看護提供方式。看護師がナースステーションを拠点とせず常に患者の近く（病室内）で業務を行うのが特徴

# 従来の方式のメリット・デメリットとセル看護提供方式®導入の経緯

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師の動線が短い</li> <li>・患者に目が行き届きアレルギー症状等の異常の早期発見がしやすい</li> <li>・お互いの業務が見えるため協力体制が取りやすい</li> <li>・看護師がそばにいるため患者が声をかけやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者が点在している</li> <li>・誰の受け持ち患者か明確でない</li> <li>・アラーム対応や点滴交換、トイレ介等は受け持ち看護師でなく気づいた看護師や一定の看護師が行っていることが多い</li> <li>・受け持ち患者の治療終了後まで関わっていないことが多い</li> <li>・プライバシーの配慮ができていない</li> </ul>

## 従来の体制を継続する事で生じると思われる問題点

- ①看護師の動線が長くなる
- ②アラーム・タイマー等の対応に時間がかかる
- ③お互いの業務がみえない
- ④看護師が患者の傍らに居ることが難しくなり  
異常の早期発見ができにくい
- ⑤シートの位置によっては患者がNsに気軽に声を  
かけにくくなる
- ⑥担当看護師の業務量に差が生じる

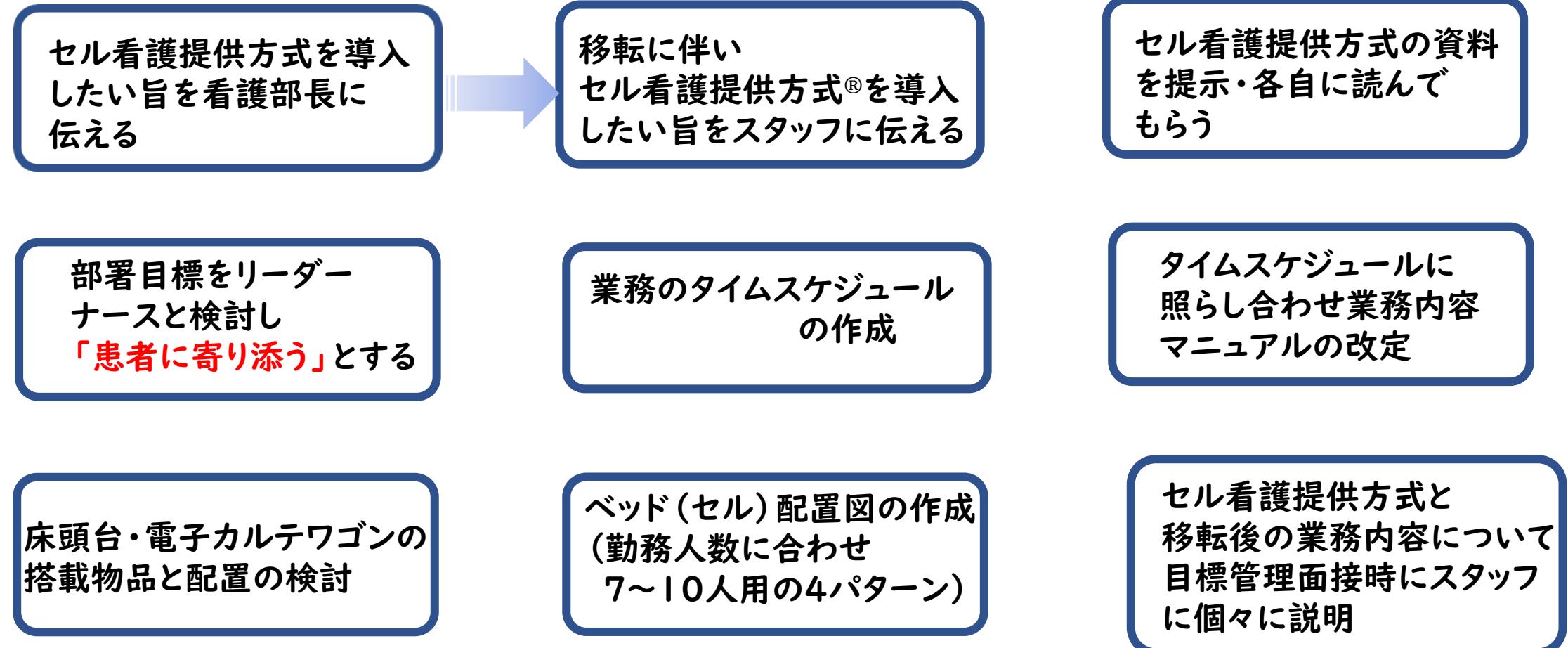


生じると思われる問題を回避  
し看護の質を担保するために



セル看護提供方式の導入

# 化学療法室でのセル看護提供方式導入に向けての取り組み

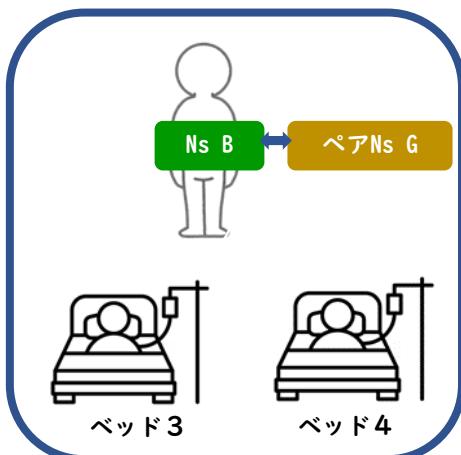
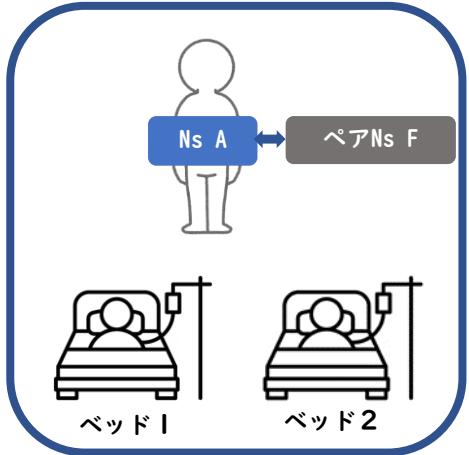


# ベッド（セル）配置図の作成

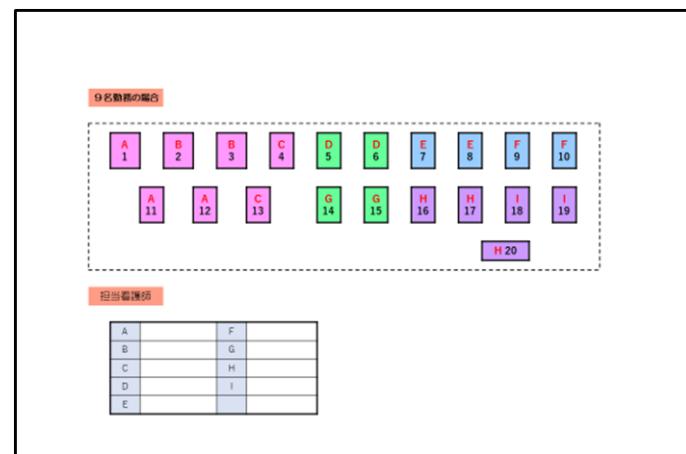
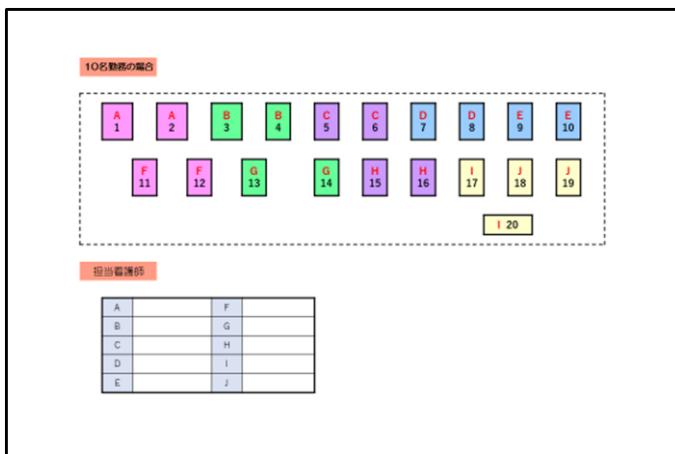
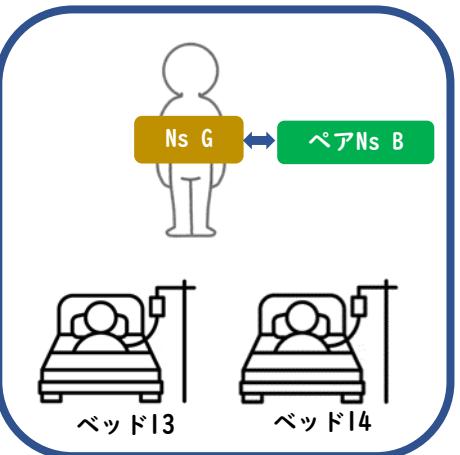
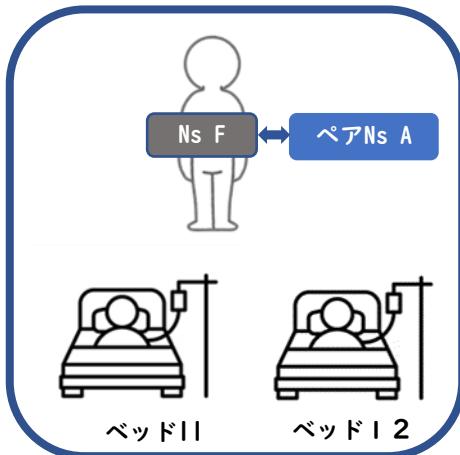
ケモ室版

## セル看護提供方式

- ・受持ち患者さん2、3人のそばに担当の看護師がいる
- ・看護師どうしひペアを組み、お互いの業務を補完しあう



・ ・ ・ ・



勤務人数に応じた  
(10人～7人の  
4パターン)  
担当ベッドとペアNs  
を決めた



# セル看護提供方式の実際 タイムスケジュール・業務マニュアルの変更整備・電子カルテワゴンの整備

## 【タイムスケジュール・業務マニュアルの変更整備】



【タイムスケジュール】		
時 間	スケジュール	内 容・特記事項等
AM8:30 (出勤時間)	電子カルテ・ワゴンの準備 ポケットチャート準備 ワゴンの物品補充	ログイン・情報収集 ワゴンの物品補充
9:00	多職種カンファレンス	司会は正規職員が行う *業務内容マニュアル参照
① 患者入室案内 ② 受持ち看護師の挨拶 ③ 患者状態確認 ④ ホワイトボードに投与時間と投与本数を記入	リストバンド確認と点滴台に貼る 発熱がある場合は再検 免疫チェックポイント阻害薬・エンハーブ等はSPO2値測定	
⑤ 電子カルテ上で受持ち患者を外来治療センターに入院させる ⑥ 情報確認	処置オーダー入力の確認 前投薬の有無 抗がん剤以外の注射薬が別オーダーの有無の確認 検査データ 段階の変更の有無 化学療法レジメン以外の薬剤の有無	
⑦ 点滴のダブルチェック	ルート、流量、投与経路・投与時間、注意事項の確認	
⑧ 薬剤師に抗がん剤のミキシングを依頼する 点滴準備をする	抗がん剤以外の注射薬が別オーダーの有無の確認	
⑨ 点滴開始	末梢静脈確保またはCVポートの穿刺介助	
⑩ 症状観察・点滴の投与管理	業務内容マニュアル参照 症候・介入 電子カルテ上にテンプレートあり(チップシート貼り→壁掛け→各薬液用紙貼り)	
⑪ 症状者が退室後、電子カルテ上の外来治療センター画面から退室させる 2人目以降時に①~⑩を繰り返す	ペアのNと相談し休憩	
10時からPM AM11:00~14:00	休憩	

## 【電子カルテワゴンの屋台化?】



### 【業務マニュアル】

- ① 多職種カンファレンス：当日のレジメン、患者情報、ケアの方針等の共有をする。
- ② ダブルチェック→受け付けクリークに発行してもらった指示書を行い、注射薬のダブルチェック（患者名・薬剤名・投与量・投与速度・点滴ルートの種類・投与順・投与経路）を行う
- ③ 処置入力：点滴の抗がん剤投与の場合、外来腫瘍化学療法診療料1イ無菌調製処理量1イ（閉鎖式接続器具使用）を算定する。CVポートからの投与の場合抗悪性腫瘍局所持続注入を算定（生食やバクスターインフューザーLV5J2C1009を使用した場合の入力も確実に行う）
- ④ 患者の状態確認：患者に受持ち看護師であることを伝え挨拶をする。当日の体調と、前回から今回までの体調を確認する。有害事象を観察し、投与可能な状態かどうかを再確認する（必要時、バイタルサインの再検・SPO2値の再測定を行う）
- 入室後、予約治療依頼用紙（黄色）で、内服の有無、連絡事項を確認し治療前の内服薬がある場合は内服確認をする
- ⑤ カルテ確認：処置オーダー入力、検査データ（血算、肝機能、腎機能、血糖値、Mg、TP、CRP、腫瘍マーカー、甲状腺機能、KL-6、尿タンパク等々、薬剤によりチェックするデータは異なる）  
医師の診察記録、投与量、処方事項等を確認する
- ⑥ 薬剤師に抗がん剤のミキシングを依頼：中心静脈ポート挿入中の患者は、点滴の液下を確認してからミキシング



# 化学療法室満足度調査

【実施期間】：2024年12月9日から12月20日の  
土曜日曜を除く2週間（10日間）

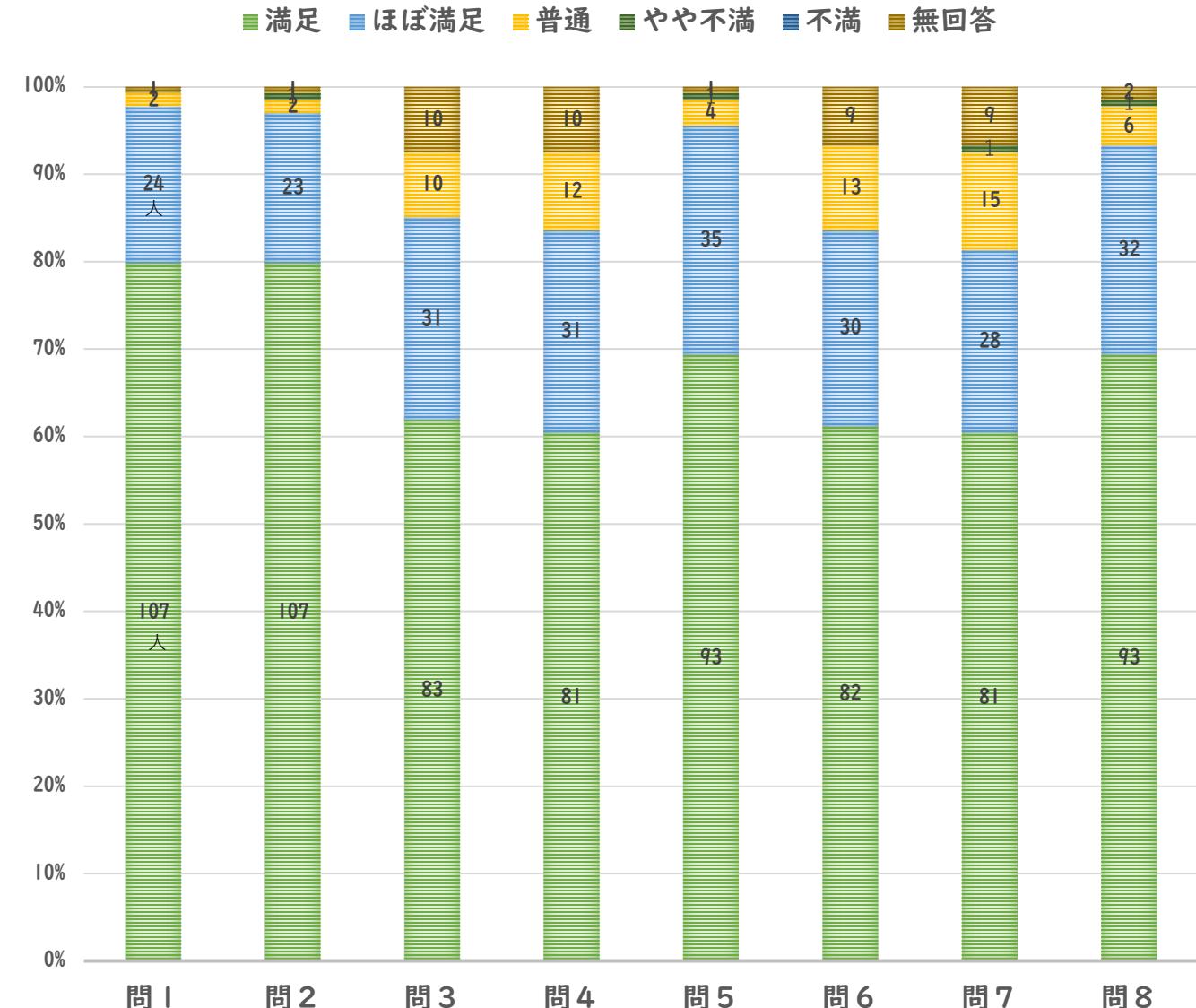
【調査概要】皮下注射や筋肉注射を除く患者の  
リクライニングシートのオーバーテーブルに  
アンケート用紙を置き記入を依頼し化学療法室  
出入口に設置した回収箱に提出してもらった

調査期間中に化学療法室利用患者176名、  
回収したアンケート134枚（回収率76%）

【アンケート内容】8つの間にリッカート尺度  
(満足 ほぼ満足 普通 やや不満 不満)  
を使用し設問に回答してもらう。

## 【質問項目】

- 問1：頼んだことに対する確実な対応はできていましたか
- 問2：看護師による説明は分かりやすかったですか
- 問3：薬剤師による説明は分かりやすかったですか
- 問4：必要な情報を得ることができましたか
- 問5：看護師の技術は満足できましたか
- 問6：今後の不安など十分聞いてもらうことができましたか
- 問7：悩みや不安を軽減または解消できましたか
- 問8：プライバシーの保護はされていましたか



# 化学療法室満足度調査 旧外来化学療法室と比較して

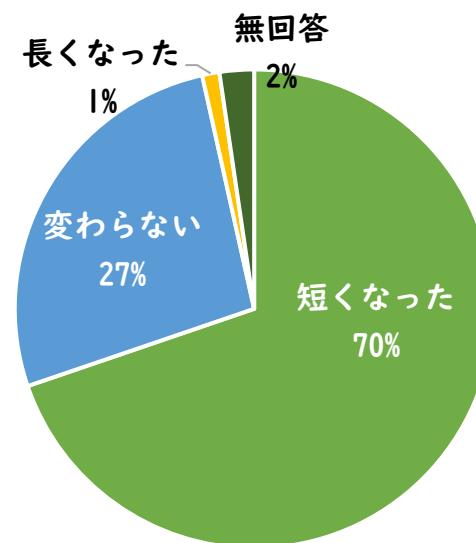
実施期間：2024年12月9日から12月20日の

土曜日日曜日を除く2週間（10日間）

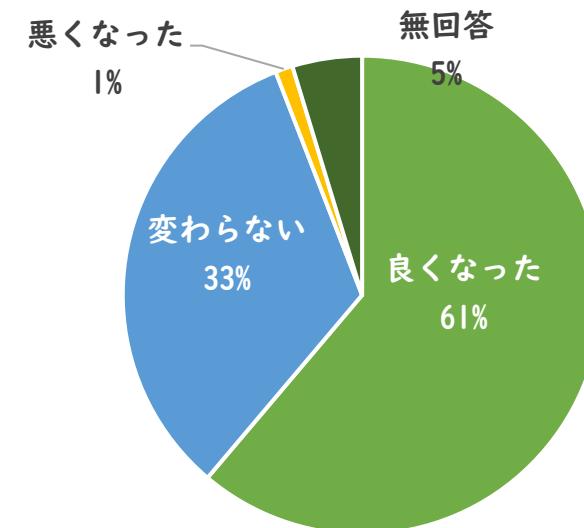
アンケート配布176名中回答86名（回収率48%）

内容：移転後の化学療法室と西館2F外来化学療法室との比較

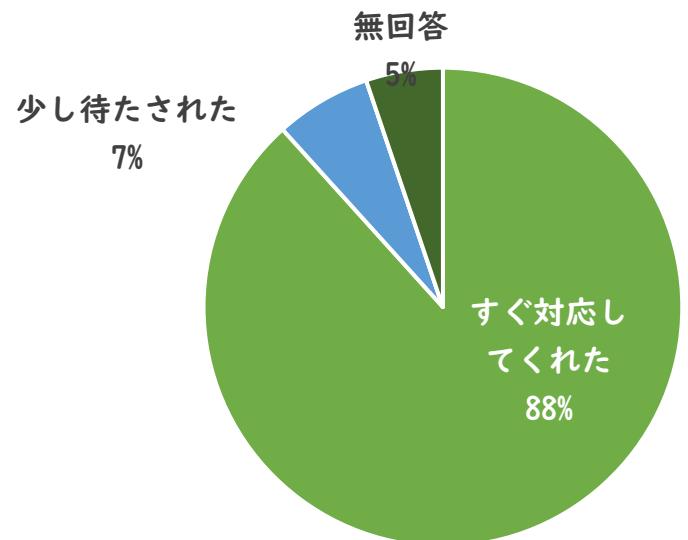
【入室までの待ち時間について】



【プライバシーの配慮について】



【看護師の対応について】



# セル看護提供方式を導入しての看護師の感想と導入しての結果・評価

## セル看護提供方式を導入しての感想の聞き取り

【実施】目標管理面接時にセル看護提供方式®の実施しての意見  
感想の聞き取り調査を実施

### 【意見・感想】

- ・導入前は師長が何を言い出したのかわからなかつたが、実際に行ってみてセル看護方式は化学療法室にむいていると思った
- ・今までより楽になった
- ・前のように皆で患者を見るという方式より、責任をもって患者をみれるのが良い
- ・看護師の勤務人数が少ない日は受持ち患者が多くて大変になる
- ・ペアナースが誰かによって、又は受け持ち患者によって業務が大変になることがある
- ・最後まで責任を持って患者がみれる
- ・ペアナースと協力して働ける
- ・昼交代時に、申し送りをペアナースに行えて良い
- ・昼交代時の業務がペアナースと自分の患者の両方をみなければならぬので大変
- ・午後の患者が入室した後は患者のそばに座って記録ができる

**すべてのスタッフが旧体制よりセル看護提供方式の方が良いという意見であった**



昼休憩交代時の業務偏りや他看護師の状況把握と業務調整のため

昼休憩交代時の**ブリーフィング（タイムアウト）**を導入

他のペアの状況を把握することで補完しあうことができてきている

## 【セル看護提供方式を導入した結果・評価】

- ・従来の体制を継続する事で生じると思われる問題点(2枚目スライド)は回避できた
- ・患者は、旧化学療法室に比べ入室までの待ち時間や看護師の対応までの時間が短くなったと評価している
- ・化学療法室看護師は旧体制よりセル看護提供方式®の方が働きやすいと感じている

## 【化学療法室の今後の展望と課題】

- ・セル看護提供方式を継続し患者さんに寄り添う温かな看護の実践
- ・外来化学療法患者のスムーズな受け入れ
- ・他部署・多職種との連携の強化